

3・3 アジア船主フォーラム (ASF)

3・3・1 アジア船主フォーラム総会

第 21 回アジア船主フォーラム (ASF) 総会は豪州船主協会(ASA)の主催により、平成 24(2012)年 5 月 22 日に豪州 ポートダグラスで開催され、アジア 8 地域、13 船協(日本、韓国、中国、台湾、香港、ASEAN(ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム)、豪州、インド)から 120 名強の代表が参加した。当協会からは芦田会長、工藤・朝倉・加藤木各副会長他が参加した。(【資料 3-3-1-1】)

ASF は、平成 4(1992)年に第 1 回総会(当協会主催)を開催して以来、メンバー国/地域の船主協会が北から南の順で毎年議長を回り持ちしながら総会を開催しており、毎年の年次総会の間に 5 つの常任委員会(船員、 SHIPPING・エコノミクス・レビュー、船舶保険・法務、航行安全・環境、シッピング・リサイクリング)が夫々中間会合を開催している。5 つの常任委員会の構成および各委員会への当協会代表は【資料 3-3-1-2】の通りである。

第 21 回 ASF 総会では、はじめに各常任委員会の個別会合が開催され、主要議題について意見交換を行い、その後の全体会合では各委員会の委員長から 1 年間の主な活動について報告があった。国際海運団体(BIMCO, ICS, INTERTANKO, INTERCARO)や造船・船級団体等も出席したフォーラムでは、園田 ASF 事務局長がコーディネーターを務め、海賊問題、温室効果ガス削減問題およびバラ積貨物液状化問題について、出席者間で活発な意見交換が行われた。

上記会合終了後にはプレスリリース(【資料 3-3-1-3】参照)を採択し、その中で、ソマリア海賊問題が依然として最重要課題であることを確認した他、パナマ・スエズ両運河の通航料値上げ問題に対して懸念を表明した。更に、シッピング・リサイクリングについては、IMO メンバー国に対して、「2009 年の船舶の安全かつ環境上適正な再生利用のための香港国際条約」の批准を促すとともに、全世界の海事産業に同条約を支持するよう求めていくことを確認した他、平成 24(2012)年 3 月 23 日付 EU 法規則 267/2012 に定められたイランに対する欧州理事会の制裁について、イラン産の原油や石油製品等を輸送する船舶(イラン産燃料油を使用する船舶を含む)に対する責任保険及び再保険の一時的な適用除外を恒久的なものとするよう求めた。

次回第 22 回総会は、平成 25(2013)年 5 月にインド船主協会の主催により、インド・ムンバイで開催される予定である。

3・3・2 各委員会における検討状況

(1) SERC (SHIPPING・エコノミクス・レビュー委員会)中間会合

SHIPPING・エコノミクス・レビュー委員会(Shipping Economics Review Committee: SERC、当協会企画部が事務局)は、平成 24(2012)年 10 月 23 日に台湾・台北で第 25 回中間会合を開催し、ASF メンバー船協から 6 カ国/地域の代表 21 名が出席した。

同会合では、工藤委員長(当協会副会長)が議長を務め、中国の経済概況、太平洋およびアジア域内コンテナ航路の需給見通し、ドライバルク/タンカーの市況動向のほか、独占禁止法適用除外問題、パナマ運河通航料問題について、率直かつ活発な意見交換を行った後、了解事項(【資料 3-3-2-1】参照)を採択した(出席者は【資料 3-3-2-2】参照)。

(2) SC(船員委員会)中間会合

船員委員会(Seafarers Committee: SC)は平成24(2012)年10月22日に台湾・台北で第18回中間会合を開催した。同会合では、中国、台湾、香港、日本、韓国、アセアンの各船協が出席し、Li Shanmin(中国船協)委員長の下、主に改正STCW条約およびILO海上労働条約に係る各国の取り組み状況等について意見交換が行われた。

(3) SILC(船舶保険・法務委員会)中間会合

船舶保険・法務委員会(Ship Insurance and Liability Committee: SILC)は平成 25(2013)年 3 月 19 日に香港で第 18 回中間会合を開催し、中国、台湾、香港、日本、韓国の各船協が出席した。同会

合では、Robert. A. Ho(香港船協)委員長代理の下、海事債権責任制限、ILO 海事労働条約、避難場所およびバラ積貨物液化化問題などに関して意見交換が行われた。

(4) SNEC(航行安全・環境委員会)中間会合

航行安全・環境委員会(Safe Navigation and Environment Committee:SNEC)は中間会合を以下の通り開催し、Patrick Phoon(シンガポール船協)委員長の下、ソマリア沖・アデン湾やギニア湾等諸海域の海賊問題、温室効果ガス削減問題、バラスト水管理条約など海上安全・環境保護に関連する諸課題について意見交換を行った。

第 23 回中間会合(平成 24(2012)年 9 月 17 日 於インドネシア・ジャカルタ)

(中国、香港、日本、韓国、台湾、アセアンの各船協が出席)

第 24 回中間会合(平成 25(2013)年 3 月 22 日 於韓国・ソウル)

(中国、日本、韓国、台湾、アセアンの各船協が出席)

(5) SRC(シップリサイクル委員会)中間会合

シップリサイクル委員会(Ship Recycling Committee:SRC)の第16回中間会合が平成25(2013)年3月18日に台湾・台北で開催され、Frank Lu(台湾船協)委員長の下、シップリサイクル条約・関連ガイドラインやEU域内規制の動き等について意見交換を行った。同会合終了後のプレスリリースの中では、EU域内規制は同条約を損なう恐れがあり、国際的な条約の履行のみがシップリサイクルの問題を解決する唯一の方法であるとの見解を示した。同会合には中国、台湾、香港、日本、アセアンの船協が出席した。

3・3・3 ASF 会長会議

ASF 加盟船協会長で構成される「ASF 会長会議」は、平成 24(2012)年 5 月 21 日に豪州・ポートダグラスで第 11 回会合を、同年 11 月 9 日にシンガポールで第 12 回会合を夫々開催した。

ASF は IMO 事務局に対して IMO オブザーバーステータスを平成 24(2012)年 3 月に正式に申請したものの、同年 6 月の同理事会で申請が却下されたことを受け、第 12 回会合では ASF の今後の活動の方向性について検討した結果、今後 ASF Strategy Working Group で勧告を取り纏め、第 13 回会合で同勧告を審議することで合意された。

なお、平成 24(2012)年年末で ASF 事務局長の任期が満了することから、当協会は次期事務局長として園田現事務局長を推薦し、他方で韓国船主協会も候補者を推薦したため、第 12 回会長会議で審議された。しかしながら、同会合では結論に至らなかったため、その後関係者間で協議した結果、園田事務局長の任期を平成 26(2014)年 6 月末まで延期することとなった。